

東日本大震災 支援活動報告 No.2

● 義援金に関する報告

(1) 募金箱（法人内各施設設置）及び地域交流会収益金の義援金状況

義援金送金先	金額
岩手県 児童養護施設 一関藤の園	500,000円
第三回義援金計（H24/7/6）	500,000円

平成24年7月6日～7月8日に、法人内児童養護施設「清心慈愛園」児童2名と職員2名で、被災地（岩手県 児童養護施設 一関藤の園）を訪問し、義援金50万円とメッセージボードを直接届ける。

● 支援活動に関する報告

(1) 活動主体 : 特定非営利活動法人 災害福祉広域支援ネットワーク・サタダ -バ-ド
 派遣日程 : 平成24年3月9日～平成24年3月15日〈7日間〉
 派遣先 : 岩手県釜石市平田地区内 仮設住宅サポートセンター
 派遣者 : 聖ヨゼフ園 乙丸伸雄
 富の里 草場俊仁 計2名

(2) 活動主体 : 社会福祉法人 全国社会福祉経営者協議会
 派遣日程 : 平成24年6月3日～平成24年9月25日
 派遣先 : 福島県南相馬市 特別養護老人ホーム長寿荘
 派遣者 :

6/3	～	6/19	富の里	川畑 仁
6/17	～	7/3	富の里	柴田安子
7/1	～	7/17	富の里	宮崎直人
7/15	～	7/31	富の里	西依 暁
7/29	～	8/14	富の里	坂上竜三
8/12	～	8/28	聖ヨゼフ園	富松一教
8/26	～	9/11	聖ヨゼフ園	西川英隆
9/9	～	9/25	聖ヨゼフ園	吉峰宗則

計8名

(1) 岩手県「仮設住宅サポートセンター運営支援」活動報告

派遣職員名：聖ヨゼフ園 乙丸 伸雄

派遣期間：平成24年3月9日～3月15日

派遣場所：岩手県釜石市 平田地区第6仮設住宅サポートセンター

1. 活動概要

東北地方で起きた地震及び津波の影響で、住まいを失くした多くの人々は、震災当初は、被災の影響を受けていない公民館や学校の体育館での共同被災生活を送られていました。そんな中、トイレや風呂を備えた仮設住宅が次々と完成し、仮設住宅での生活が始まりましたが、そこで暮らしている多くの方は、高齢世帯、独居高齢者、母子家庭世帯など、様々な家族構成の世帯が、頻繁に起きる余震に怯えるように生活を送られていました。その仮設住宅で暮らす住民をサポートしていく事を目的に、福祉施設を運営するジャパンケア(株)がサポートセンターを運営開始して、仮設住宅の住民が安心して生活を送れるような環境整備などに取り組んでいる状態でした。

そのサポートセンターの運営を協力していく事を目的に現地の支援を開始しました。この平田地区のサポートセンターは、津波の影響を受けないような山間の高台にあった、野球場と公園を利用し建設されている場所で、約250世帯分の仮設住宅となっています。サポートセンターでは、高齢者への介護予防教室や要介護高齢者への通所デイサービスも同時に行われていましたが、それとは別に仮設住宅の環境整備や仮設生活の問題点などを行政へ上げていき、次の支援へとつなぐ役割を担っていました。

最初に現地で感じたことは、3月の東北は寒い、太平洋側に位置し比較的雪は少ない地方だということですが、私たちが派遣された3月は、毎日のようにサポートセンター周辺の雪かきが朝の業務になっていました。1年前のこの時期に震災があった事を考えると、かなり厳しい被災を受けられたのだなと感じられます。

この平田地区サポートセンターでの支援内容ですが、朝の雪かきから、仮設住宅内の独居世帯、高齢者世帯への安否確認の為に戸別訪問、声かけを行い、その後は、サポートセンターへ、デイサービスを受けにくる利用者の迎え入れなどを実施し、その後、仮設住宅周辺の問題点を探る活動を行ってきました。

独居世帯や高齢者世帯の安否確認は、この頃、ニュース等で仮設住宅内での孤独死などが報道されていた為、サポートセンターのスタッフもかなり神経を使った様子で、不在や応答がなかった世帯など、緊張した様子で再訪問をなされていました。この様な事は、毎日のサポートセンターの日報にも記録に残され、毎日、朝夕申し送りされていました。

又、独居高齢者世帯には、緊急連絡用テレビ電話を設置していますが、その電波受信確認や高齢者は使用方法を忘れやすいので、使用説明などにも対応してきました。

環境面では、平田地区の仮設環境は良い方で、小さなスーパーや食堂、理髪店、診療所も併設され、診療所には、週に2回、ドクターの訪問があり、バスの停留所も完備された仮設住宅ではありましたが、それでもいくつかの問題点も見受けられていました。

その1つは、排水設備の問題がありました。約250世帯が暮らす仮設住宅は、元々は、自然の中の野球場や公園を利用して設置されているのが現状であり、下水や上水道の環境も仮設としての備えで作られており、雪や雨の多い日には水たまりが出来やすく歩く場所

を探しながら回り道をして自宅に入るような場所がいくつも見受けられました。
又、山間にある自然公園だった為、鹿や小動物のふんもたくさん見られていました。
少し離れた場所では、熊の姿が目撃されているとの情報も聞かれていましたので、その辺の対策も、今後検討していかなければとサポートセンターのスタッフの間で話されていました。
サポートセンターの支援期間中、3月10日には、ジャパンケア(株)本社からも応援が来て震災で亡くなった方々の合同一回忌法要があり、その準備のお手伝いも行いました。
仮設住宅の中で暮らす方々の中にも家族を失ってここに来た人が沢山おられ、法要の席では涙を流される住民やスタッフの姿が、目に焼きつきました。
次の日3月11日は、震災から1年目と言う事で、市内では1周忌記念式典が開催され、町のいたる所で、鐘が鳴らされ黙とうしている姿が見られていました。
又、その日は周辺の被災地を視察に行き、海岸周辺の津波の影響を目のあたりにしました。
釜石市では、大きな警察署でさえ、津波の影響で機能出来なくなってしまい、町の中心部のビル等も3階もしくは4階部分でさえも機能出来なくなるほどの影響を受けている様子でした。その他の地域でも川沿いの小学校が体育館の屋根部分まで壊されているなど被害の大きさに驚かされるしかありませんでした。普通の住宅に関しては、住宅自体が流され基礎の部分が残っている程度で、ああ、ここに家があったんだと切なく思いました。
サポートセンターのスタッフの方もほかの地域の仮設住まいから通勤している方もおり、話を聞かせて頂きましたが、震災後2・3日が特に苦しかったと言ってありました。
家が流され食べるものも無く、食糧確保しようにも親戚との通信手段も途絶え、車での移動もままならなかったのも、おそろおそろ海岸周辺に向かい、流された缶詰や袋詰めされた食べ物を拾って食べていたと話されました。そんな時に、流された人の遺体を見かけ、目印を付け、後で自衛隊や警察に連絡を入れた事など、当時の辛い話をしてくれました。

2 活動を通しての感想

震災から1年が経過した被災地ですが、まだまだ復興した状態とはいえない状況です。まだまだ沢山の課題があり、今後もあと数年の支援が必要と感じられます。亡くなられた家族の心の傷もそうですが、大量の被災ごみなど被災地以外の地域の協力がなくては、復興は進んでいかないと思います。被災地の方々は、震災後の食糧支援や人的支援など助かったと言われていましたが、今後も政府、自治体、民間など色々な協力なくして、東北は復興して行かないと思います。今後も少しでも何か協力できる事を行って東北の復興を支援して行きたいと思っています。

派遣職員名：富の里 草場 俊仁

派遣期間：平成 24 年 3 月 9 日～3 月 15 日

派遣場所及び施設名：岩手県釜石市平田第 6 地区サポートセンター

1. 活動概要

- ・仮設住宅サポートセンタースタッフ（ジャパンケア）に同行し、サポートセンターとデイサービスの支援を行う。
- ・サポートセンターの現状を知り、サンダーバード（NPO法人）と協力しながら今後の支援に役立てていく。
- ・被災地を視察する。（釜石、陸前高田、気仙沼）
- ・仮設住宅に暮らしている方々やサポートセンタースタッフから震災当時から現在の話を聞き、震災が起きた現実、震災後の状況を自施設に持ち帰り伝える。
- ・3月10日にサポートセンターで1周忌法要行事があり参加する。
- ・3月11日は震災同時刻に釜石市内の1周忌記念式典を視察する。
- ・サポートセンター業務を円滑に行う為、早朝は除雪作業を行う。

2. 派遣を通しての所感

今回の派遣を通して仮設住宅に暮らしている人々の様子やその人達をサポートするサポートセンターの現状を知る事が出来た。

また、自らも派遣期間は仮設住宅で過ごした。

スタッフの方々も仮設住宅暮らしの人が多く、サポートされる方もサポートする側も被災者という現実がそこにはあった。その現実の中で誰も後ろ向きになることなく仮設住宅サポートセンターを力強く運営されていた。

被災者の方々は笑顔で震災当時の話を語って下さっていたが、内容はとても重く辛いものであった。

被災地を視察しても復興は進んでおらず、先の見えない状況であった。

派遣最終日には震災後から続く余震に遭遇し、一夜にして震災当時の恐怖が蘇る日となった。

ここで起きた現実を忘れることなく、今後も継続して支援していき、未来の東北へとつなげていきたい。

(2) 福島県「介護職員応援職員派遣事業」活動報告

施設名及び派遣職員名：富の里 川畑 仁

派遣期間：平成 24 年 6 月 3 日～6 月 1 8 日

派遣場所及び施設名：福島県南相馬市原町区小川町 409

社会福祉法人伸生福祉会 特別養護老人ホーム長寿荘

1. 活動概要

時間	活動内容
8:30	朝食介助、口腔清潔
9:00	水分補給、オムツ交換
10:00	シーツ交換
11:00	オムツ補充、移動移乗介助
12:00	昼食介助、口腔清潔
13:00	休憩
14:00	西ユニット入浴介助～15時
15:00	水分補給
16:00	洗濯物たたみ、オムツ交換、トイレ介助
17:00	夕食準備、移動移乗介助
17:30	退勤

2. 派遣を通しての所感

着任時に、介護職応援派遣事業が開始される事に関して、「感謝」と同時に「期待」をして受け入れようとしている様子が職員皆さんからの私達に対する言葉掛け等から十分に感じ取られた。その様な事から今回の派遣事業に携わる責任と使命を思うに、施設側に対して逆に負担にならない様にする事と、進んで補足すべき事を知り、介護に当たって行かなければならいと思った。また、今後も継続されていくべき事業と考え、その為の情報をしっかりと次に繋ぐ事の大切さを感じその事にも努めた。

津波による、家族の喪失、住居損壊。放射能による、生活の場の喪失。この様な被害状況下での職員は、仮設住宅からの出勤、職員家族の死亡被災、避難先からの長距離の出勤等、復旧・復興と言うより、今だ「被災直後」の生活と変わらない生活が今だ続いていると思った。そんな中での職員さん達の利用者への優しさはもちろんの事、職員同士の「使命感」と、「絆」を持って業務に当たる姿勢を見た時、私等が「介護職としての大切さ」を教えられた様に思った。

施設名及び派遣職員名：富の里 柴田安子

派遣期間：平成 24 年6月17日～7月3日

派遣場所及び施設名：福島県南相馬市原町区小川町 409

社会福祉法人伸生福祉会 特別養護老人ホーム長寿荘

1. 活動概要

時間	活動内容
8：30	朝食介助、口腔清潔
9：00	水分補給、オムツ交換
10：00	シーツ交換
11：00	オムツ補充、移動移乗介助
12：00	昼食介助、口腔清潔
13：00	休憩
14：00	西ユニット入浴介助～15時
15：00	水分補給
16：00	洗濯物たたみ、オムツ交換、トイレ介助
17：00	夕食準備、移動移乗介助
17：30	退勤

2. 派遣を通しての所感

早いもので、福島県への介護職員応援職員派遣を終えて2か月が経とうとしています。今回、介護現場への応援職員という事で、自ら手を挙げて派遣させていただきました。

派遣先の現場は、ユニット型特養でした。利用者の方は被災時、他県の5つの施設に分散、生活をされていたと伺いました。しかし、利用者の方からは被災時の事に関してほとんど話を伺うことはありませんでした。職員の方についても、職場では明るい笑顔・声で利用者支援をされていました。

その反面、職員の方に被災にあった自宅やその周辺を案内していただきました。また、現在住んでいる仮設住宅へも招いて頂きました。被災地は、外壁だけの家々や、流された車・がれき。まだまだ、手づかずの状態の現状を目にしました。「現状を知ってもらい、伝えて欲しい」と、派遣期間に聞いた言葉でした。今回の派遣事業で我々の存在が、少しでも役に立っていればと思います。今後も継続される事業であって欲しいと願います。

施設名及び派遣職員名：富の里 宮崎 直人

派遣期間：平成 24 年 7 月 1 日～7 月 17 日

派遣場所及び施設名：福島県南相馬市原町区小川町 409

社会福祉法人伸生福祉会 特別養護老人ホーム長寿荘

1. 活動概要

時間	活動内容
8:30	朝食介助、口腔清潔
9:00	水分補給、オムツ交換
10:00	シーツ交換
11:00	オムツ補充、移動移乗介助
12:00	昼食介助、口腔清潔
13:00	休憩
14:00	ユニット入浴介助～15時
15:00	水分補給
16:00	洗濯物たたみ、オムツ交換、トイレ介助
17:00	夕食準備、移動移乗介助
17:30	退勤

2. 派遣を通しての所感

現場に入ります感じた事は、職員も利用者もなんて暖かく、優しい方々なんだろうということだった。施設にいるほとんどの方が何らかの被害にあわれていたのだが、そんな事は感じさせない暖かさがあつた。応援に行っているこちらが逆に元気をもらえた。職場の雰囲気もよく、利用者が少しでも何か声を出したり、行動を起こすと、すぐに職員が気づき最後まで話をきかれているのがすごく印象に残っている。

また、実際に被災地も見て回つた。テレビや新聞等で見るのと、実際に自分の目で見るのでは全く違うものであつた。壊れた家、車、道路の数々、居住が禁止されているエリアの状況。言葉にならなかつた。

ある職員の方が、「たった1年少しでもう忘れられている気がする。復興にはまだ時間がかかるのに…」と言われた。2週間で出来た事は少ない。しかし、この文を読んで一人でも多くの方が、東北の事を考える「きっかけ」になれば、この2週間の経験も意味があるものになつたのではないかとそう思う。

施設名及び派遣職員名：富の里 坂上 竜三

派遣期間：平成 24 年 7 月 29 日～8 月 14 日

派遣場所及び施設名：福島県南相馬市原町区小川町 409

社会福祉法人伸生福祉会 特別養護老人ホーム長寿荘

1. 活動概要

時間	活動内容
8:30	食器洗浄、朝食介助、口腔清潔
9:00	トイレ誘導、オムツ交換
10:00	シーツ交換
11:00	オムツ補充、移動移乗介助
12:00	昼食介助、口腔清潔
12:40	休憩
13:40	入浴介助～16時
15:00	入浴介助
16:00	洗濯物たたみ、オムツ交換、トイレ介助
17:00	夕食準備、移動移乗介助
17:30	退勤

2. 派遣を通しての所感

今回、派遣事業を通して自分自身 1 年 5 か月前に受けた衝撃、記憶が薄れていたのを非常に反省した。長寿荘の職員から、津波で子どもや親を失った話や、現在仮設住宅に住みながら出勤されている方、妻・子どもと別々に生活をしなければならない状況にある方も大勢いる事を教えていただいた。職員さんからも、「こうして働ける事が有りがたい」「派遣職員さんがきて、いてくれるだけでも本当にありがたい」という言葉も聞かれた。常日頃、富の里で、入居者と楽しく話をできる事、職員と声を掛け合い働いているごく当たり前の日常の尊さを感じる事ができた。

まだまだ介護職員の人員の現状は厳しく、特養の入居待機者が 300 名もいると言う話もあり、モチベーションを維持継続していくためにも、応援職員派遣事業は大切なものであり、日本人として少しでも力になれる様これからも支援していきたいと思う。

施設名及び派遣職員名：聖ヨゼフ園 富松 一教

派遣期間：平成24年8月12日～8月28日

派遣場所及び施設名：福島県南相馬市原町区小川町409

社会福祉法人伸生福祉会 特別養護老人ホーム長寿荘

1. 活動概要

時間	活動内容
8:30	朝食介助、口腔清潔
9:00	水分補給、オムツ交換
10:00	シーツ交換
11:00	オムツ補充、移動・移乗介助等
12:00	昼食介助、口腔清潔
12:40	休憩
13:40	西・東（週3回 曜日別）ユニット入浴介助～15時
15:00	水分補給
16:00	洗濯物たたみ、オムツ交換、トイレ介助
17:00	夕食準備、移動・移乗介助等
17:30	退勤

2. 派遣を通しての所感

今回の活動でテレビやマスコミで報道されていない様々な被災地ならではの問題点を目の当たりにした。特別養護老人ホームの現場で応援の業務にあたったが正直、自分自身が何の役に立ったかは結局わからないままだった。ただ現場の利用者の笑顔や職員からの感謝の言葉は非常にありがたく感じた。言葉では被災地支援だの言っているがまだまだ震災前の生活を現地の人たちが取り戻すには程遠い。でも被災地の皆さんが復興に向けとても前向きに取り組んでいることに言葉では表せない程の感銘を受けたし、支援とまではいかないが少しでもそのお手伝いができたことを誇りに思う。今後はこの派遣だけに留まるのではなくこの「出会い」を大切に、継続してできる事を見つけ出し決して忘れることのないようにしていきたいと思う。

施設名及び派遣職員名：聖ヨゼフ園 西川 英隆

派遣期間：平成 24 年 8 月 26 日～9 月 11 日

派遣場所及び施設名：福島県南相馬市原町区小川町 409

社会福祉法人伸生福祉会 特別養護老人ホーム長寿荘

1. 活動概要

時間	活動内容
8:30	朝食介助、口腔清潔
9:00	水分補給、オムツ交換
10:00	シーツ交換
11:00	オムツ補充、移動移乗介助
12:00	昼食介助、口腔清潔
12:40	休憩
13:40	西・東（週3回 曜日別）ユニット入浴介助～15時
15:00	水分補給
16:00	洗濯物たたみ、オムツ交換、トイレ介助
17:00	夕食準備、移動移乗介助
17:30	退勤

2. 派遣を通しての所感

まず、現地に到着し被災地を目の当たりにしてこちらと被災地の温度差をすごく感じた。まだまだ当時のまま残されている所もあり、がれきの山もいくつもあった。自分の目で見ている状況に驚きと衝撃を感じた。そんな中、長寿荘にて介護面でのお手伝いをさせて頂いた。一日の中で大変と感じたことはないも、たまに言葉（方言）の面で理解するのに時間を要した部分はあった。しかし職員の方、入所者の方共に暖かく迎え入れて下さり本当に感謝した事を覚えている。

日が経つにつれて、当時の話や今大変と感じている部分を聞かせて頂くことが多くなってきた。被災当時、職員の方は自由出勤にし出勤出来る方で業務を回したり、入所者の方の食事はおにぎり1～2個で職員の方はほとんどない状況が続くなどしていたとの事。同じ日本とは思えないほど、壮絶な内容だった。

まだまだ、復興には時間・お金・人等がかかる。このことを風化させず、これからも自分に出来る事をやり続けたいと思う。

施設名及び派遣職員名：聖ヨゼフ園 吉峰 宗則

派遣期間：平成 24 年 9 月 9 日～9 月 25 日

派遣場所及び施設名：福島県南相馬市原町区小川町 409

社会福祉法人伸生福祉会 特別養護老人ホーム長寿荘

1. 活動概要

時間	活動内容
8:30	朝食介助、口腔清潔
9:00	水分補給、オムツ交換
9:10	シーツ交換
9:30	オムツ補充、移動移乗介助
10:00	園庭・園内環境整備
11:00	移動移乗介助・昼食準備
12:00	昼食介助、口腔清潔
13:00	休憩
14:00	東・西ユニット入浴介助（曜日別）
15:30	水分補給
16:00	洗濯物たたみ、オムツ交換、トイレ介助
17:00	夕食準備、移動移乗介助
17:30	退勤

2. 派遣を通しての所感

まず、現地に到着し被災地を目の当たりにして、復興が進まず当時のまま残されている所やがれきの山もあちこちにあり、衝撃や驚きを感じた。長寿荘にて利用者への介護・施設の環境整備のお手伝いをさせて頂いた。11日間勤務をさせて頂いて大変と感じたことはなくすごく楽しく過すことが出来た、その中で困った点が、言葉（方言）の面で理解するのに苦労した。被災当時の話を聞く機会もあり職員・利用者共に食事の面など、全てにおいて考えられない内容であり、胸が絞めつけられる思いであった。

これからも、復興にはものすごく時間・人間・お金が、掛かると思う。また、今回の様な派遣事業はもちろん参加したいし、現地に居なくても出来ることを考え行って行こうと思う。